

千歳市かわまちづくり計画書（案）

<様式 1>

千 事 調 第 号
令 和 年 月 日

（北海道開発局長経由）
国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

千歳市長 横田 隆一

「かわまちづくり」計画の登録について（申請）

「かわまちづくり」支援制度実施要綱第 7 の規定に基づき、下記のかわまちづくり計画について申請いたします。

記

名 称：千歳市かわまちづくり計画
推進主体：千歳市かわまちづくり検討会

以上

1. 市町村の概要

- ①都道府県名 北海道
 ②市町村名 千歳市
 ③人口 97,704 人（令和 6 年 9 月 1 日現在）
 ④面積 594.5km²

千歳市は、北海道の中南部、石狩平野の南端に位置し、札幌市や苫小牧市など 4 市 4 町に隣接しています。市街地の標高は 15m 前後の低地となっていて、国内では最も低い 25m 前後の分水嶺が飛行場の付近にあり、江戸期には千歳川などを利用する北海道内部の河川交通の陸上部分・シコツ越えの地として栄えました。地域の西部は山岳地帯で国立公園である支笏湖地域を形成し、市街地は支笏湖を源とする千歳川の沖積地に広がり、飛行場・空港、工業団地、自衛隊駐屯地・基地などに、東部は丘陵地帯で自然豊かな農業地帯となっています。

「千歳」という和地名は鶴が多く生息した自然に由来していて、四季折々に変化する自然環境の中で生活することができる千歳市は、北海道の中核都市です。

人口については、平成 28 年 3 月に「千歳市人口ビジョン・総合戦略ーみんなで 97,000 プロジェクト」を策定し、目標人口 9 万 7 千人の達成に向けた各種施策に取り組み、平成 30 年 4 月には約 2 年前倒しでその目標を達成し、現在も増加を続けています。今後は新たな目標である 10 万人達成に向け、企業誘致の推進などによる雇用の創出、観光資源を活かした交流人口の拡大、さらには子育て支援や教育環境の充実などの取組を推進しています。

また、千歳市には、陸上自衛隊東千歳・北千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地に各部隊が所在し、市内に居住する自衛官とその家族等は人口の約 25% を占め、町内会活動をはじめスポーツ・文化団体での活動を通して市民生活と大きな関わりあいを持っています。

観光では、国内航空路線網の基幹空港であり、北海道における国際航空の拠点である新千歳空港などの優れた都市機能を持つほか、支笏湖を中心に豊かな自然に恵まれた観光都市です。「見る観光」と「体験する観光」のまち千歳市は、四季折々に開催される支笏湖でのイベントやグリーンベルトでのスカイ・ピア&YOSAKOI 祭など多くのイベントが開催されています。**グリーンベルトは、千歳市中心部に位置し、千歳川を挟んで 1 km にわたり 8 つの広場を有する緑地帯で地域住民の憩いの場として利用されています。**

また、国産での半導体製造を目指す Rapidus（ラピダス）による最先端半導体製造工場の建設が進んでおり、2020 年代後半の量産化に向けて、経済の発展が見込まれます。



2. 河川の概要

- ① サーモンパーク構想（石狩川水系千歳川、花園地区、S54～）

実施場所：石狩川水系千歳川 花園地区

施策目的：河川利用の促進、環境教育、その他

事業内容：

明治 21 年に始まった日本における官営の「さけ・ます人工孵化事業」発祥の地に、「サーモンパーク基本構想」を策定し、平成 6 年に千歳さけのふるさと館が、平成 17 年には道の駅サーモンパーク千歳がオープン（H27, R5 リニューアル）しました。

事業主体：千歳市

整備内容：道の駅、水族館

関連 URL：

サーモンパーク千歳 (<https://www.salmonpark.com/>)

千歳水族館 (<https://chitose-aq.jp/>)



サケのふるさと千歳水族館



道の駅サーモンパーク千歳

2. 河川の概要

② 千歳川桜プロジェクト（石狩川水系千歳川、千歳橋～日の出橋、H28～R5）

実施場所：石狩川水系千歳川 千歳橋～日の出橋

施策目的：河川利用の促進、良好な景観形成

事業内容：

千歳川に市民が植樹した約 300 本の桜や柳は、台風や病気などにより減少し、ところどころ空間が目立つ状況となっていました。このため、千歳市では市街地における千歳川周辺の水辺空間を良好にし、賑わい・憩いの空間として多くのみなさんに親しまれるとともに、市街地の活性化につながるよう、千歳川両岸約 1.6km の区間に桜を植樹し連続した桜並木とする、「千歳川桜プロジェクト」を平成 28 年度から実施しました。

事業主体：千歳市

整備内容：桜の植樹

関連 URL：

千歳市ホームページ

<https://www.city.chitose.lg.jp/docs/95-95921-165-863.html>



千歳川沿いの桜並木

③ 河川管理用通路の整備（石狩川水系千歳川、千歳橋～インディアン水車橋、H12～H22）

実施場所：石狩川水系千歳川 千歳橋～インディアン水車橋

施策目的：河川利用の促進

事業内容：

千歳川沿いの管理用道路が整備され、遊歩道として散歩、ジョギング、犬の散歩などに利用しやすくなりました。

事業主体：国土交通省北海道開発局

整備内容：管理用道路（国）

④ 市民や民間事業者による河川利活用状況

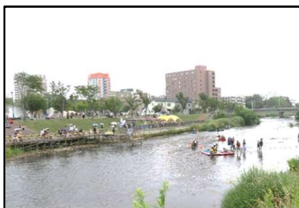
・ RIVER CITY PROJECT

事業期間：7 月～8 月

主催：一般社団法人千歳青年会議所

実施内容：

千歳市の地域資源である「千歳川」を舞台に、まちの魅力と価値を最大限に引き出しながら、地域の活性化を目指すため、2014 年に千歳青年会議所による「RIVER CITY PROJECT」がスタートしました。このイベントでは、千歳川に隣接するグリーンベルトでキッチンカーによる飲食物の販売、アウトドアショップの出店など民間事業者も参加し、千歳川では、気軽に川下り体験ができる企画が民間のカヌー事業者により実施されています。また、道内の河川に関わる活動を通じて地域の活性化や振興を図る取組の推進に向け、北海道開発局が主催する「第 3 回かわたびほっかいどう報告会」において、令和 5 年で 10 周年を迎えた「RIVER CITY PROJECT CHITOSE」が、全道 355 件の取組の中から、「大賞」を受賞しました。



RIVER CITY PROJECT の状況



キッチンカーの営業



ラフティング
(川下り体験)



かわたびほっかいどう
大賞受賞

・道の駅 サーモンパーク千歳 サケのふるさと千歳水族館

事業期間：サケの放流体験（3月～5月）、インディアン水車祭り（9月）

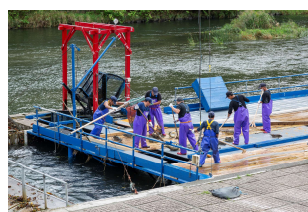
主催：千歳水族館、インディアン水車まつり実行委員会

実施内容：

サケのふるさと千歳水族館、道の駅サーモンパーク千歳は、観光客など多くの人々が訪れます。秋にはサケの遡上を観察する人々で賑い、春は子供たちを対象としたサケの放流体験などが開催されています。秋は、風物詩であるインディアン水車の捕獲風景と、サケ鍋など食を楽しむインディアン水車まつりが開催されます。



サケの放流体験



インディアン水車
によるサケ捕獲の様子



インディアン水車まつり



・清流と緑を守る市民の会 千歳川河川清掃

事業期間： 8月

主催：一般社団法人千歳青年会議所

実施内容：

千歳青年会議所が主体として開催している千歳川清掃は、陸上自衛隊や各種団体、スポーツ少年団の子供たちなどを含む多くの市民が参加しています。コロナ禍は中止されていましたが、2023年より再開されています。

千歳市を代表する清流千歳川を守るこのような活動は、環境の大切さを再認識する機会であり、さらに郷土への愛情と誇りを育むことにもつながるため、美しい清流千歳川の姿を、次の世代を担う子どもたちに残していくことが大変重要であると考えています。



千歳川河川清掃の様子

・リバークリーンデイ

事業期間： 6月

主催：一般社団法人かのあ

実施内容：

千歳川をいつまでも美しく保つことを目的に、千歳川の源流支笏湖でカヌーなどの活動をしている「一般社団法人かのあ」が主催して年に2回程度河川清掃を行っています。リバークリーンデイは、「市民参加&企業連携型」のフィールド活動として、市民・地元企業・行政が協力しあった活動を目指しています。



カヌーでの清掃活動



千歳川から回収されたゴミ

リバーグリーンデイの様子

・カヌー利用、水辺の利用、管理用通路の利用

千歳市の市街地中心部を下るカヌー利用者も見られ、今後も水上アクティビティとしてのカヌー等の利用が期待されます。グリーンベルトと接する清水町親水公園は、市民にとって大切な場所であり、子供たちの遊び場となっています。夏には親水公園で水遊びなどに利用されています。

市街地の千歳川沿いは、散策路が整備されており、散策やジョギングなどで活用されていますが、一部道路で分断され連続性が確保されていないことから、市民からは、長年、散策路のアンダーパス化の要望が上がっています。



カヌー利用の状況



水辺の利用



散策での利用

3. かわまちづくりの方針

① 地域における課題、必要性

千歳市の中心部は、北海道の空の玄関口である新千歳空港から15分とアクセスがよく、国内外からの観光客が道内観光に向かう出発の拠点となっています。また、市内中心部を流れる清流千歳川は、水と緑が豊かで野鳥などの多様な生物が生息し、特に、総合公園の青葉公園付近から上流の区間は手付かずの良好な自然環境・景観を有しています。

千歳川沿いは、住居系の土地利用が進んでおり、開放的な河川空間は地域住民などの憩いの場所として利用されています。一方で、住宅と河川敷が近接しており、河川空間の賑わいづくりにあたっては、地域住民の生活に配慮する必要があります。

こうした千歳川沿いの状況や特性を踏まえ、千歳川に隣接した観光拠点であるサーモンパークと市民の憩いの場所であるグリーンベルトなどについて、拠点間をつなぐことにより周遊性や利便性の向上を図り、地域住民の日常的な利用と新たな観光価値を高めるアクティビティが一体となった水辺空間を整備することにより、エリア全体の価値を高めるとともに、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を目指します。

■かわまちづくりのコンセプト

～市民が誇る千歳川と

空のまち『ちとせ』をつなぐ かわまちづくり～

水辺空間

- ・安心、安全に水に親しむことができる水辺空間の創出
- ・誰もが集い憩う日常的に利用される水辺空間の形成

環境・景観

- ・水がきれいでサケの遡上やヤマセミ、カワセミなどの野鳥等が生息する、清流千歳川の貴重な自然環境を保全
- ・千歳らしい水と緑が豊かで、魅力的な都市景観の形成

賑わい

- ・グリーンベルトと川を繋ぎ、中心市街地の賑わいを創出
 - ・ウォーターレジャーを軸としたアクティビティやアドベンチャーツーリズムの創出
- ※賑わいの創出にあたっては、地域の生活に配慮

周遊性

- ・水辺の拠点を快適で安全に繋ぎ「拠点回遊軸」として形成
- ・多くの人々が散策や自転車で楽しめる移動空間を形成

② 市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

千歳市は令和3年3月に、まちづくりの最上位の計画である「千歳市第7期 総合計画 基本構想」（計画期間：令和3年～令和12年）を策定しました。同計画では「暮らしやすく便利な都市基盤があるまち」を基本目標とし、その展開方針として「川とともに安心して暮らせるまちづくり」を位置づけています。また、千歳市第3期都市計画マスタープラン（令和4年3月）の「全体構想 07 水と緑の環境形成の方針」においては、千歳川およびグリーンベルトの有効活用について記載しています。

更に、令和3年に設立した「ちとせエリアプラットフォーム」が令和5年2月に策定した「ちとせ未来ビジョン」では、実現に向けた取組として、「空間資源の活用」、「ウォーカブルなまちなか」など、千歳川の活用についても記載しています。

■千歳市の各種計画等における千歳川の位置づけ（抜粋）

青色：水辺空間に関する事項
赤色：賑わいに関する事項
黄色：周遊性向上に関する事項
緑色：景観に関する事項

千歳市第7期総合計画 基本構想（R3.3） 令和5年度実施計画（第3期）（R5.8）

- 千歳川の自然環境を保全しつつ、都市機能と融合した「千歳らしい都市景観」の形成
- 千歳川の公共空間を活用し、**中心市街地におけるにぎわい創出と活性化**
- 千歳川の河川敷地において、**水辺空間の創出**に向けた遊歩道の整備や平常時における河川敷地の有効利用

- 基本目標6：暮らしやすく便利な都市基盤があるまち
- 展開方針1：住みよさとにぎわいを生み出す市街地の形成に努めます。
- 展開方針6：川とともに安心して暮らせるまちづくりに努めます。



千歳市第3期都市計画マスタープラン（R4.3）

- 千歳川河岸での水辺利用により、市民や観光客が周遊するなど、**魅力的な水辺空間やにぎわいづくりに資する場の創出**
- 千歳川河岸において、**居心地が良く歩きたくなる空間**の創出や**水に親しむことができる水辺空間**の創出
- 千歳川などの自然環境を生かした水辺空間やオープンスペースの確保など、**川に顔を向けた水と緑豊かな都市景観の維持・形成**
- グリーンベルトや道の駅サーモンパーク千歳など、多くの人が立ち寄る空間において、千歳川や周辺の公園・緑地の一体的な活用など、さらなる**賑わい創出**に資する**魅力的な景観づくり**に努めます。
- 千歳川沿いの散策路などを、**快適で安全な「拠点回遊軸」**として形成を図ります。

- 水と緑の環境形成の方針
- 景観まちづくりの方針
- ひと・もの・にぎわい・交流まちづくりの方針



第3期千歳市商業振興プラン（R3.5）

- 観光客やビジネス客・若い世代の取り込み**
- 歩行者ネットワークの形成**、**にぎわい**を感じられる景観づくり
- エリアマネジメントを推進する場の構築

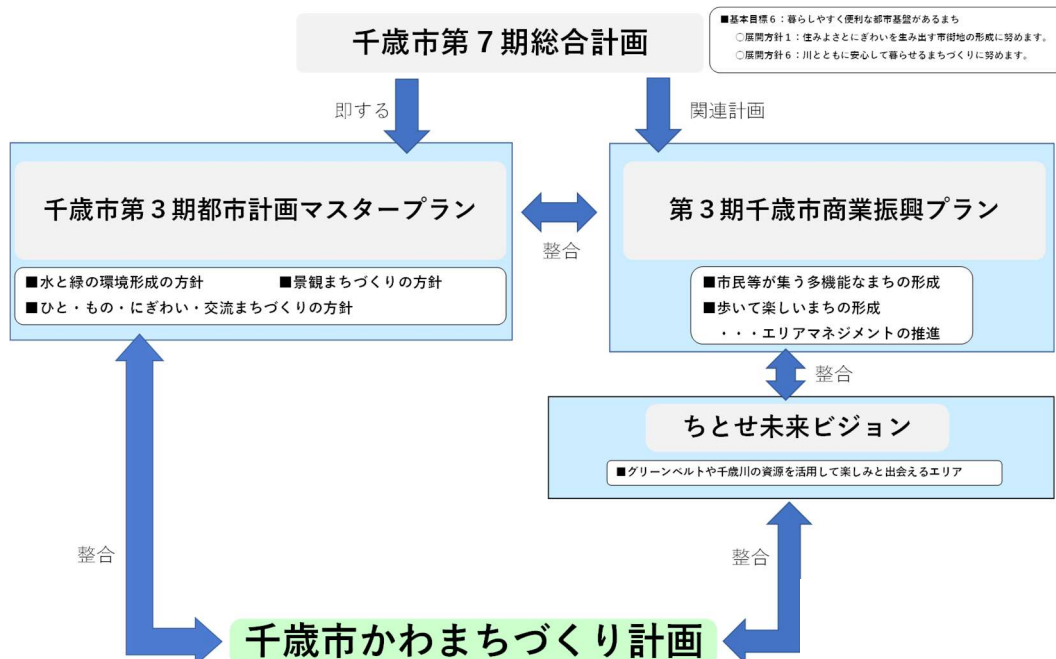
- 市民等が集う多機能な街の形成
- 歩いて楽しいまちの形成



ちとせ未来ビジョン（R5.2）

- グリーンベルトや千歳川、道路などの「公共空間」、空き地や店舗などの「民間不動産」など、様々な空間資源を柔軟に活用し**、地域と時代に対応したコンテンツを創出することで、市民や来訪者の滞在や滞在を促し、様々な「楽しみ」を呼び起こすエリアを目指します。

- グリーンベルトや千歳川の資源を活用して楽しみと出会うエリア



- ・千歳市第7期 総合計画 基本構想（令和3年3月策定）
該当箇所：110 ページ
掲載 URL：https://www.city.chitose.lg.jp/docs/6068.html
- ・千歳市第3期都市計画マスタープラン（令和4年3月策定）
該当箇所：37 ページ
掲載 URL：https://www.city.chitose.lg.jp/docs/11410.html
- ・ちとせ未来ビジョン（令和5年2月策定）
該当箇所：8 ページ
掲載 URL：https://www.city.chitose.lg.jp/docs/21617.html

③地域活性化や賑わいのあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

・ミズベリング千歳会議（H27.3）

ミズベリング・プロジェクトは、新しい水辺の活用の可能性を切り開くための官民一体の協働プロジェクトであり、①まちにある川や水辺空間の賢い利用、②民間企業等の民間活力の積極的な参画、③市民や企業を巻き込んだソーシャルデザイン、の3つの基本コンセプトに従い、水辺を「つくる」だけでなく水辺やその周辺の地域・文化を「つかいこなす」ことを視野に入れ、持続可能な水辺の未来創造に貢献するものです。千歳市においては千歳青年会議所が主催し、千歳川の将来の利活用について話し合う「ミズベリング千歳会議」が平成27年3月に開催されました。

・かわまちづくりワークショップ（R2.8）

今後の「かわまちづくり計画」作成の参考とするため「シーニックバイウェイ北海道 令和2年度 ウエルカム北海道エリア・行政連絡担当者合同会議」に合わせて「かわまちづくりワークショップ」が開催されました。本ワークショップは、千歳市青年会議所が平成27年3月に開催し、千歳川の将来の利活用について話し合った「ミズベリング千歳会議」の結果を基に実施されました。

・ちとせエリアプラットフォーム

千歳市では、令和3年にちとせエリアプラットフォームを設立し、地元事業者、青年会議所、学識経験者や学生など、官民の幅広い関係者が参画してグリーンベルト周辺のまちづくりの将来像や取組の方向性が議論され、令和4年度には社会実験として、千歳川を活用した川床の設置やサウナイベントが開催されるなど、千歳川の更なる利活用に向けた検討が進んでいます。

また、このようなイベントには、キッチンカーやアウトドアショップの民間事業者も参加し、千歳川周辺での営業活動やグリーンベルトに隣接する千歳川のカヌー、ラフティングの体験イベントを実施しており、千歳川周辺での商業活動が実施されています。

・グリーンベルト及び周辺の活性化に向けた取組

ちとせエリアプラットフォームでの議論などを踏まえ、令和4年度には、まちの顔エリアが目指す将来像を描いた「ちとせ未来ビジョン」を策定しました。また、令和5年度には、中心市街地の活性化を図るため、グリーンベルトに着目し、隣接する「広場・公園・道路・河川」を一体的に活用しながら、まちの特徴を最大限に活かす「文化交流」「産業振興」「観光」の3機能を備えた複合拠点化を目指す新たな官民連携事業などにより、周辺への波及効果を生むための手法について調査しました。

これらの調査結果を受け、令和6年度には、民間事業者から複合拠点化など、まちの活性化に資する幅広いアイデアを募集するため、サウンディング型市場調査を実施するなど、中心部を流れる千歳川を含めたまちの魅力づくりに向け検討を進めています。



ミズベリング千歳会議



かわまちワークショップ



ちとせエリアプラットフォーム



空と川の OUTDOOR*FESTIVAL (R6)



ブルーインパルスによる
グリーンベルト上空の飛行
(まちなかのイベントと航空祭の連携)



イベントで設営された川床

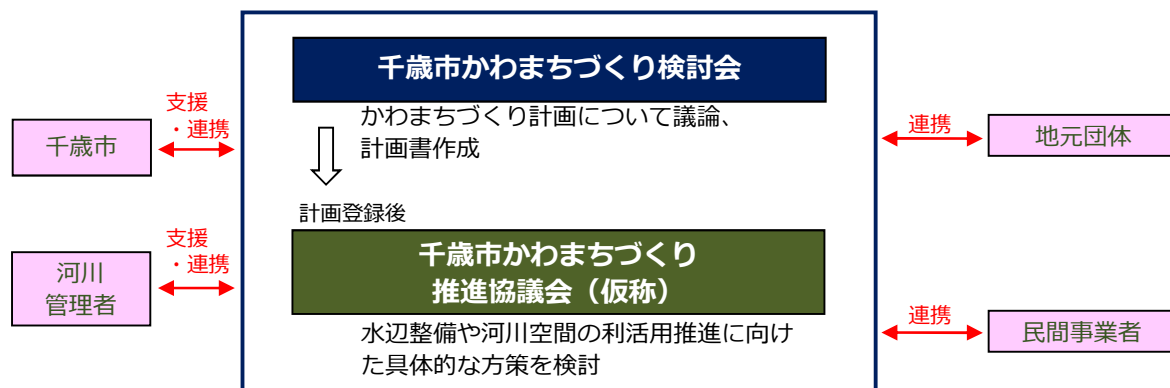
④地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標
定量的目標

指標	従前値	目標値	設定の考え方・測定方法等
道の駅サーモンパーク年間利用者数	71.3 万人/年 (令和 5 年度)	110 万人/年 (令和 17 年度)	・ 指定管理者モニタリング結果に基づき評価 ・ 過去の利用者数の最大 (104.5 万人 [R 1 年度]) に基づき設定
観光入込客数 (支笏湖エリアを除く)	118.3 万人/年 (令和 5 年度)	180 万人/年 (令和 17 年度)	・ 千歳市観光入込客数調査結果に基づき評価 ・ 目標値は千歳市第 7 期総合計画 目標値を参考に設定

4. 推進体制・取組内容

① 検討会、運営組織等の体制

令和6年1月、千歳市、学識経験者、地元関係者等からなる「千歳市かわまちづくり検討会」を設置し、地域の意向を踏まえ、まちづくりと整合した利活用および観光振興策の検討、具体化を行っています。かわまちづくり計画登録後は、「千歳市かわまちづくり推進協議会（仮称）」を開催し、水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた具体的な方策を検討していきます。



千歳市かわまちづくり 推進体制

② 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容

2014年より、千歳青年会議所、河川管理者、千歳市、教育委員会、商工会議所、観光連盟等が連携し、「千歳川」を舞台に、まちの魅力と価値を最大限に引き出し、地域の活性化を目指した「RIVER CITY PROJECT」が、毎年7月に開催されています。「RIVER CITY PROJECT」では、ラフティング体験、川での水遊び、川床の設置など河川に関わるイベントが開催されています。

5. 安全な河川利用に向けた取組

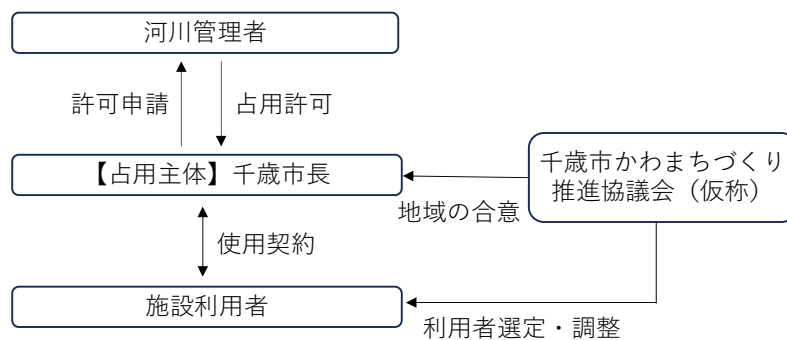
- ・千歳川の利用にあたっては、事故の防止や千歳川沿いの地域住民への配慮、動植物の生息、生育環境への配慮などが必要なことから、利用者のルールやマナーをまとめたガイドラインを作成します。
- ・安全な河川利用に向けては、河川管理者等による安全利用点検を行い、必要な施設の補修等を行うとともに、注意喚起の看板や転落防止柵の設置を検討します。

6. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

千歳川沿いの水辺空間を活かし地域のニーズに対応した日常的な賑わいの創出や魅力あるまちづくりを進めるため、地域の合意形成や事業を推進する実行組織（千歳市かわまちづくり推進協議会（仮称））の発足を目指します。また、民間事業者等によるオープンカフェの設置など、河川敷地での営業活動が可能となる「都市・地域再生等利用区域」の指定について検討し、指定区間についても今後調整を行います。



都市・地域再生等利用区域指定の候補地



事業スキームイメージ

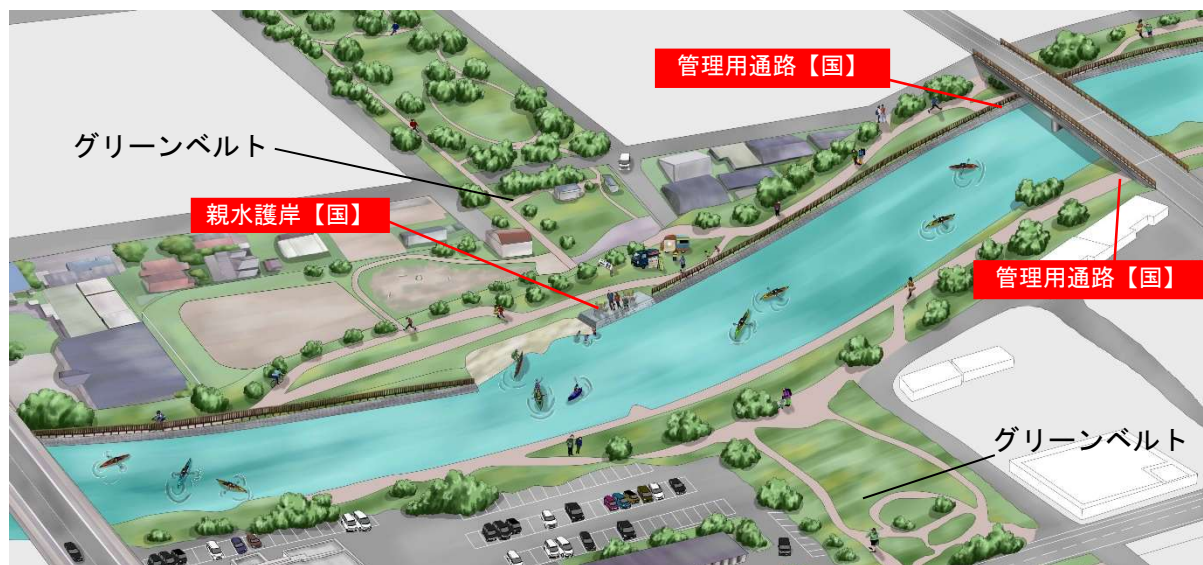
7. 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

- ・親水護岸やカヌー発着場などのハード整備にあたっては、サケ・マスの遡上環境および野鳥などの生息環境に配慮し、極力現況の地形を活かした整備を行います。
- ・千歳川は、水がきれいでも多様な動植物が生息する環境を有していることから、このことを知り、守る、環境教育の場としての活用を検討します。

1. 河川名
一級河川石狩川水系千歳川
2. 提案事業の実施範囲
千歳川 サーマン橋付近 ～ 千歳橋
3. 提案事業の概要
千歳川に隣接した観光拠点であるサーモンパークと市民の憩いの場所であるグリーンベルトなどについて、拠点間の周遊性や利便性の向上を図り、まちなかを流れる清流千歳川を中心とした地域住民の日常的な利用と新たな観光価値を高めるアクティビティが一体となった水辺空間を整備します。このことにより、エリア全体の価値を高めるとともに、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を目指します。 1) 周遊性の向上 - 千歳川を中心とした散歩・ジョギング・サイクリングマップの作成 - JR千歳駅を中心としたレンタサイクル事業のブラッシュアップ 2) 賑わいの創出 - 河川周辺におけるカフェなどの営業 - イベント時などでの桜並木のライトアップやキッチンカー営業 - ウォーキングイベント - ゴミ拾いイベントの連携 - 環境教育の場としての活用 3) 新たな観光価値を高めるアクティビティの企画 - ガイドツアーの企画 - アドベンチャーツーリズムモデルコースの設定 4) インバウンド利用も含めた観光客の利便性向上 - カヌー等ウォーターアクティビティ利用者向けの利用マップ(多言語対応)作成 - 道の駅の観光案内機能の強化 - 利用者向けのルール、マナーの啓発やガイドラインの作成
(参考) 位置図

1. 河川名 一級河川石狩川水系千歳川
2. 整備範囲 ①千歳川 グリーンベルト地区 ②千歳川 サーモンパーク地区
(全体位置図) サーモン橋付近～千歳橋の区間で整備を行う。 
3. 整備内容 散策やジョギングなどで利用されている千歳川沿いの散策路の連続性を確保するために、管理用通路のアンダーパス化を行います。水辺のアクティビティとしてカヌー利用を促進するために、カヌーが安全に発着できるように法面整備を行います。市民の憩いの場であるグリーンベルトの清水町親水公園において水辺により近い場所でキッチンカーの営業やオープンカフェの利用ができるように親水護岸を整備します。 【ハード施策】 河川管理用通路と公園のトイレや入り口等へのアクセス向上（国・市）、案内看板（多言語対応）等の整備（市） 河川管理用通路沿いの休憩施設、照明灯の整備（市） 千歳川に隣接する公園などに駐車スペースを確保（市） （グリーンベルトゾーン） 親水護岸（国）、管理用通路（清雲橋左右岸アンダーパス化）（国） （サーモンパークゾーン） 管理用通路（日の出橋右岸などのアンダーパス化）（国） 法面整備（カヌー発着場）（国） 荷下ろし車両向け駐車スペース（市）案内看板（多言語対応）等の整備（市）

①千歳川 グリーンベルト地区



親水護岸の整備イメージ

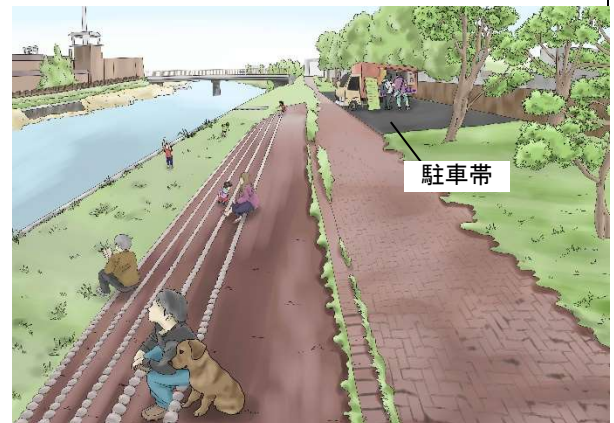


管理用通路（アンダーパス化）の整備イメージ

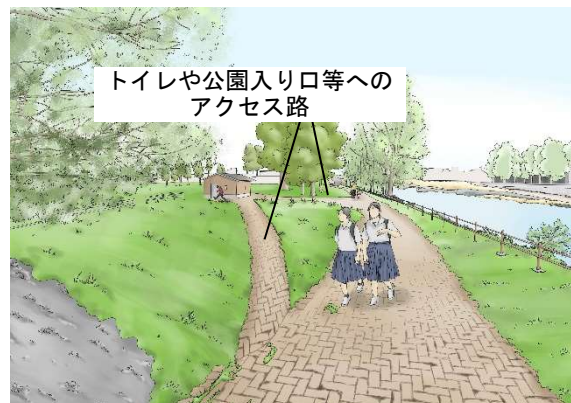
②千歳川 サーマンパーク地区



法面整備のイメージ



駐車帯の整備イメージ



トイレや公園入り口等へのアクセス向上のイメージ

4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

千歳市第7期総合計画の実施計画においては、河川環境の整備の指標として遊歩道の連続性の確保を挙げているほか、千歳川河川緑地整備事業として、千歳川沿いの休憩施設や照明灯の整備を進めています。これらに加え、かわまちづくり計画に基づく整備により遊歩道の分断解消やさらなる利便性の向上が図られます。

また、千歳市では、令和3年度に国土交通省の「ウォーカブル推進都市」に参画するとともに、まちの顔となるグリーンベルト周辺エリアの将来像やまちづくりの取組の方向性を議論・共有するため、官民の幅広い関係者が参加する、ちとせエリアプラットフォームを設立し、令和5年2月に「ちとせ未来ビジョン」を策定しました。

このちとせ未来ビジョンには、実現に向けた取組として「空間資源の活用」、「ウォーカブルなまちなか」などを挙げており、かわまちづくりと連携することにより、千歳川における空間資源の活用および、ウォーカブルなまちなかの形成が図られます。

このほか、千歳市では「千歳市ゼロカーボンシティ宣言」などに基づき、環境に配慮したLED街路灯の整備や電気自動車の導入などを進めています。また、千歳川沿いでは、「千歳川桜プロジェクト」事業として、平成28年度から令和5年度までに108本の桜を植樹するなど、千歳川沿いの良好な水辺空間の形成を目指しています。

・整備工程

種別	事業者	整備内容	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
かわまちづくり 計画検討	千歳市	かわまちづくり検討会	組織運営・実施事業の具体化検討			組織運営・実施事業の支援・評価				
水辺整備	千歳川 河川事務所	親水護岸（親水テラス）								
		管理用通路（アンダーパス）								
		法面整備（カヌー発着場）								
	千歳市	アクセス性向上								
		駐車スペース								
		看板、休憩施設、照明灯								

・令和13年度からはモニタリングを実施予定（令和17年度まで）

5. 多自然川づくりに関する事項

- ・カヌー発着場としても活用するためのサーモンパーク地区の整備については、野鳥などの生息環境に配慮し、極力現況の地形を活かした整備を行います。
- ・清雲橋、日の出橋の管理用通路（アンダーパス）の整備にあたっては、水理特性、背後地の地形・地質、土地利用などを十分踏まえた上で、必要最小限の設置区間とし、生物の生息・生育環境と多様な河川景観の保全・創出を図る適切な工法で整備します。

6. その他特筆すべき事項

千歳市の名前の由来は、1805年に当時は多くの鶴が生息していたことから「鶴は千年、亀は万年」の故事にちなんで「千歳」と名付けられ、明治に入ると札幌本道（現在の国道36号）の開通に伴い、千歳は街道の宿場町として栄えました。

千歳川では、古くからサケが遡上し、アイヌ民族はサケを「カムイチェブ（神の魚）」として大切にしてきました。明治21年には、サケ産卵事業が開始され、千歳川での「インディアン水車」によるサケの捕獲は、120年以上が経った現在も秋の風物詩となっています。

千歳市の空港は、大正15年に村民の勤労奉仕で造った着陸場に「北海」第1号が飛来したことを起源とし、令和8年には空港開港100年を迎えます。

また、市内中心部を流れる千歳川沿いでは、昭和58年に支笏湖と千歳川を結ぶサイクリングロードが整備されています。その後、平成6年には、淡水では国内最大級となる巨大水槽を有し、千歳川の水を直接見ることのできる「サケのふるさと千歳水族館」が完成し、秋には産卵のため川を遡るサケの群れなど、四季折々の千歳川の生き物を間近に観察することができます。

併設する道の駅「サーモンパーク千歳」は、令和5年にリニューアルオープンし、千歳川沿いの観光拠点として、多くの観光客や地域住民に利用されています。

千歳市は、中心部を流れる千歳川を挟むように市街地が形成され、川と共に発展を続けている地域であり、都市部でありながらオジロワシやヤマセミ、カワセミなどの野鳥やサケの遡上などを見ることができます。このような貴重な自然環境を有する千歳川と北海道の玄関口である新千歳空港を有する「まち」として、今後も豊かな自然環境の保全に努めながら、千歳川を中心としたさらなる地域の賑わい創出により、まちの活性化を図ることとしています。



インディアン水車でのサケの捕獲の様子



「北海」第1号



千歳市空港開港100年記念ロゴマーク



新千歳空港

（国土交通省北海道開発局札幌開発建設部提供）



淡水大水槽



千歳川 水中観察窓

サケのふるさと千歳水族館



千歳市の中心部

「千歳市かわまちづくり検討会」開催状況

回数	開催日時・場所	概要
第1回	日時：令和6年1月29日（月）13：30～ 場所：千歳市総合福祉センター	・千歳川、千歳市概要 ・かわまちづくり制度・計画の説明
第2回	日時：令和6年2月29日（木）13：30～ 場所：千歳市市民文化センター	・第1回振り返り、アンケート分析結果 ・ハード・ソフト施策候補について
第3回	日時：令和6年7月25日（木）13：30～ 場所：千歳市総合福祉センター	・ハード・ソフト施策検討結果 ・かわまちづくり計画書（1次案）
現地視察	日時：令和6年9月4日（水）9：30～	・スポーツセンターからサーモンパーク区間について整備候補地点を中心に現地視察を実施
第4回	日時：令和6年10月30日（水）13：30～ 場所：千歳市総合福祉センター	・かわまちづくり計画書（素案）
第5回	日時：令和7年2月5日（水）14：00～ 場所：千歳市市民文化センター	・パブコメの実施結果 ・かわまちづくり計画書（案）



検討会での協議の様子



現地視察の様子



現地視察でのカヌー試乗

かわまちづくり検討会開催の様子

1. 継続的な有効利用に関する計画
○賑わいの継続に向けた取組 ・ 管理用通路の連続性を確保することにより、グリーンベルトとサーモンパーク千歳の拠点間が繋がることから、ウォーキングマップ等の更新などにより、地域住民の日常的な利用やサイクリングなどによる千歳川沿いの利用の促進を図ります。 ・ カヌーやサイクリングでの利用を促進することによりアドベンチャーツーリズムの促進を図ります。 ・ ピクニックや水遊びの促進などにより、アウトドアコンテンツの充実に向けた検討を進めます。 ・ 「RIVER CITY PROJECT」や「インディアン水車まつり」などの千歳川を活かした既存イベントを継続し、河川空間利活用の機会の創出を図ります。
2. 維持管理計画
○地域の関係者と河川管理者との役割分担 ・ 河川管理施設等の防災上、必要とされる施設機能の維持管理については、河川管理者が実施します。 (国：管理用通路、階段等) ・ 河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携し千歳市が実施します。(市：看板、ベンチ、照明灯、樹木等) ・ 維持管理費用について、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討します。 ・ 千歳青年会議所等の市民団体と連携した河川清掃により、河川空間の美化に努めます。